様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：８２５１２
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ１８５６０

研究課題名（和文）クルド系アクターが国際秩序の安定化／不安定化に与えるインパクトに関する研究

研究課題名（英文）The impact of Kurdish actors to stability/ instability of international order

研究代表者
今井　宏平（IMAI, KOHEI）

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター中東研究グループ・研究員

研究者番号：７０７２７１３０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、国家をもたない世界最大の民族と言われ、イラク、イラン、シリア、トルコに跨って居住しているクルド人に注目し、クルド人の非政府主体が現在の国際秩序に与えるインパクトを検討した。
　本研究は研究目的達成のために実証分析と理論分析の2段階で検証を行った。実証分析に関しては、クルド人の活動に関する詳細な分析、そして武装組織の実態、紛争解決に向けた手段、そして紛争後の和解に至るプロセスに関する分析を行なってきた。また、国際関係論、政治学、社会学の理論もしくは概念を実証研究のために掘り下げた。
　本研究の最終的な成果が『クルド問題：非国家主体の可能性と限界』（岩波書店、2022年2月）である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
クルド問題は日本の中東研究の中でも手薄な分野であり、そこに厚みを持たせるために2022年2月に研究成果として『クルド問題』を刊行することができた。本書は、政治学および国際関係論の視点からイラク、シリア、トルコ、イランのクルド民族主義組織について分析した。クルド問題に関しては2019年に山口昭彦編『クルド人を知るための55章』が刊行され、日本においてもクルド人への関心が高まっていた。本書は一般書とは異なる研究書として刊行できた。一般書で触れられなかった詳細な描写や分析が本書の特徴となっている。

研究成果の概要（英文）：　This research focuses on activities of Kurdish ethnic organizations in Iraq, Syria, Turkey, and Iran through perspectives of concept of political science and international relations.
　One of the features of this research is an empirical analysis of each Kurdish organization. Another feature is using concept such as unrecognized state or transitional justice for analyzing conflict resolution or policies of organizations.
　Final result of our research was published as "Kurdish question: possibility and limit of activities of non-state actor" in February 2022.This book is one of pioneer works about Kurdish ethnic organizations in Iraq, Syria, Turkey, and Iran in Japan.

研究分野：国際関係論

キーワード：クルド人　非承認国家　トルコ　シリア　イラク　イラン　PKK　北イラク地域政府

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、中東の秩序安定を理解するうえで、クルド人の動向の分析が欠かせない。2014 年から科研費研究当初（2018 年 7 月）に至るまでのアメリカを中心とした国際社会と IS との戦闘において、国際社会の一員として実質的に IS と戦ってきたのは、シリアのクルド人組織（西クルディスタン移行期民政局）であった。一方、イラク北部で事実上の自治を展開している KRG は 2017 年 9 月 25 日に独立を問う国民投票を行い、90%前後の賛成を得て、国家建設に向けた動きを強めつつあるが、トルコやイランなどの隣国が、自国のクルド人の中で独立の機運が高まるのを憂慮し、KRG との関係を冷却化している。トルコは、1984 年から 30 年以上、非合法武装組織である PKK との間で武力衝突を繰り返しており、これまでに 4 万人以上の人々が命を落としている。2002 年に公正発展党が単独与党となって以降、3 度にわたり和平交渉が進められたが、2015 年 7 月に 3 度目の和平交渉が決裂して以降、両者の間で新たな和平交渉の兆しは見えていない。このように、クルド人の活動は中東の秩序の安定化／不安定化に大きな影響を及ぼしている。

本研究では、国家をもたない世界最大の民族と言われ、トルコ、イラク、シリア、イランに跨って居住しているクルド人が現在の国際秩序に与えるインパクトを検討する。本研究は研究目的達成のために実証分析と理論分析の 2 段階で検証を行う。実証分析を 2 年間で終え、最終年度にこれらの成果を総合的に検討し、理論的な分析を行う。クルド人組織の政治活動が中東および国際社会の秩序の安定化／不安定化に与える影響を抽出し、非政府アクター／非承認国家が国際秩序の安定化に不可欠な役割を果たすとともに、その崩壊と再構成の鍵を握っていることを明らかにする。

２．研究の目的

近年、クルド人の組織が中東の安定化／不安定化を左右するアクターとなっているにもかかわらず、日本においてクルドに関する研究は非常に手薄である。一方で、世界の研究潮流を俯瞰すると、近年、クルドに焦点を当てた良質の学術的研究が数多く見られるようになった。例えば、英国のエクセター大学にはクルド研究センターがあり、クルド問題に関して総合的な研究が行われている。また、米国の中央フロリダ大学（University of Center Florida）の政治学部准教授の Güneş Murat Tezcür は、同学部にクルド政治研究プログラムを設置するとともに、American Political Science Review, Journal of Peace Research, Turkish Studies といった一流の学術誌に政治学の枠組みからクルド問題を事例として扱う研究を発表している。日本のクルド研究の立ち遅れを憂慮し、申請者が所属するアジア経済研究所では 2015 年度からクルド研究会を実施してきた。しかし、クルド研究会はあくまで中東研究の範疇での研究会であり、安全保障や紛争解決論に根差した研究、さらにクルド問題が国際秩序に与える影響に関しては分析してこなかった。本研究は、クルド研究会が抱えるこれらの欠点を補い、中東研究の枠を超えて国際関係論の枠組みからクルド問題を検証する試みである。

３．研究の方法

実証分析に関しては、大きく 2 つの分野に分類が可能である。第 1 に、イラク、イラン、シリア、トルコにおけるクルド人の活動に関する詳細な分析である。本研究には、クルド人組織およびクルド問題に関して多くの論考を執筆している今井（トルコ・クルド）が研究代表者、青山（シリア・クルド）が研究分担者となっている。また、所属機関の関係で科研費番号を持っていない日本エネルギー経済研究所中東研究センターの吉岡明子主任研究員（イラク・クルド）、日本国際問題研究所の貫井万里研究員（イラン・クルド）にも研究協力者として本研究に携わってもらうこととなっている。また、西クルディスタン移行期民政局と KRG という国家もしくは自治を目指す非国家主体、言い換えれば非承認国家については、廣瀬が分析を行う。これらの検証により、クルド人の国内および地域での政治活動の全体像を明らかにすることが可能となる。第 2 に、武装組織の実態、紛争解決に向けた手段、そして紛争後の和解に至るプロセスに関する分析である。本研究では、イスラエルとパレスチナの和平について研究してきた辻田、シエラレオネを中心に西アフリカの武力紛争とその解決について研究してきた岡野、そして南アフリカ社会の和解、国際社会への復帰について研究してきた阿部が研究分担者もしくは研究協力者として参加している。武装組織に関しては、政治学および社会学の視点からクルド人組織の特徴を浮き彫りにするとともに、他地域の武装組織と比較することで紛争解決および和解について検討する。また、トルコ政府と PKK の停戦および和平交渉について、紛争解決と和解の視点から考察する。

４．研究成果

各年度において、研究代表者・研究分担者それぞれがクルド問題、特にクルド民族主義組織に関して論考を執筆してきた。また、日本中東学会や日本国際政治学会などで報告も行なった。一方で、2020 年度以降のコロナ禍により、海外から研究者を招くワークショップなどは実施できなかった。最終年度の 2021 年度において、研究代表者の今井が取りまとめ、岩波書店から『クルド問題：非国家主体の可能性と限界』を刊行した。まず第１章では今井・青山・吉岡がクルド民族主義組織のリーダーについて素描した。第２章で吉岡と廣瀬が北イラク自治政府を非承認国家論の観点から分析した。第３章では青山と阿部がシリアのクルド人組織を移行期正義の観点から検討した。第４章では今井と岡野がトルコの PKK に関して、暴力組織論の観点から、特にリクルートに焦点を当て分析した。第５章では今井と辻田がイランのクルド人組織を力の非対称性の概念を活用し、そのイラン政府との関係を概観した。

本研究はクルド問題に関して日本での研究状況を前進させることを念頭に置いてきたが、『クルド問題』を刊行することでその目標は達成できたと考えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計19件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 吉岡明子	４．巻 20.2
２．論文標題 イラク・クルディスタン地域の二大政党政治が抱えるリスク	５．発行年 2021年
３．雑誌名 中東動向分析	６．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 阿部利洋	４．巻 72（3）
２．論文標題 移行期正義の社会学――集合行為の意図せざる連鎖を通じた社会的回復の可能性	５．発行年 2021年
３．雑誌名 社会学評論	６．最初と最後の頁 208-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 吉岡明子	４．巻 19（2）
２．論文標題 カーディミ新政権が直面するイラクの内憂外患	５．発行年 2020年
３．雑誌名 中東動向分析	６．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 廣瀬陽子	４．巻 91
２．論文標題 ナゴルノ・カラバフ紛争　再燃の構図	５．発行年 2020年
３．雑誌名 外交	６．最初と最後の頁 98-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 廣瀬陽子	4．巻 2021 (3-4)
2．論文標題 ナゴルノ・カラバフ紛争とロシア	5．発行年 2021年
3．雑誌名 海外事情	6．最初と最後の頁 52-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 今井宏平	4．巻 536
2．論文標題 「公正発展党の内政における政権維持の手法（2002年～2019年）」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 中東研究	6．最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 今井宏平	4．巻 58
2．論文標題 「トレンド2019 トルコのシリア越境攻撃 ： その目的と域外大国の駆け引き」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 外交	6．最初と最後の頁 38-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 今井宏平	4．巻 Vol. 60, No. 2
2．論文標題 書評：Aysegul Aydin and Cem Emrence, Zones of Rebellion: Kurdish Insurgents and the Turkish State	5．発行年 2019年
3．雑誌名 アジア経済	6．最初と最後の頁 95-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24765/ajiakeizai.60.2_95	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 青山弘之	4．巻 90
2．論文標題 「現代シリアにおける国境画定の変遷」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 国際情勢紀要	6．最初と最後の頁 129-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岡野英之	4．巻 9
2．論文標題 「タイにおけるミャンマー避難民・移民支援と武装勢力―シャン人武装勢力RCSS/SSAと隣国で活動するNGO/CSO―」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 難民研究ジャーナル	6．最初と最後の頁 86-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Hideyuki Okano	4．巻 vol. 9, no. 2
2．論文標題 “Non-military Transnational Networks of Armed Group: RCSS/SSA in Burma and Shan NGOs in Thailand”	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Human Security Studies	6．最初と最後の頁 92-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 吉岡明子	4．巻 第18巻第2号
2．論文標題 「対IS戦後のイラクの中東地域外交―錯綜する域内政治の影響とそれへの対応―」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 中東動向分析	6．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 貫井万里	4．巻 2019年6月号
2．論文標題 「革命40年、イラン社会の現在――スカーフを脱ぐ女性たち、グローバル化する農村」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 三田評論	6．最初と最後の頁 ウェブ掲載
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 今井宏平	4．巻 671
2．論文標題 「中東地域秩序にクルド人の居場所はあるのか」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 国際問題	6．最初と最後の頁 17-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 今井宏平	4．巻 194
2．論文標題 「『主権の空白地』の統治をめぐるせめぎ合い――イラクとシリアにおける『イスラーム国』とクルド人組織の活動を事例として」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国際政治	6．最初と最後の頁 46-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 青山弘之	4．巻 89
2．論文標題 「シリアにおける分権制・連邦制の行方：アサド政権vsクルド民族主義組織PYD」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『国際情勢』	6．最初と最後の頁 115-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 廣瀬陽子	4．巻 1
2．論文標題 「南コーカサスと「狭間の政治学」」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 JFIR World Review	6．最初と最後の頁 49-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉岡明子	4．巻 2018(12)
2．論文標題 「イラク・クルディスタンの2018年ダブル選挙」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 中東協力センターニュース	6．最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 阿部利洋	4．巻 679
2．論文標題 南アフリカの移行期正義とその後――和解・ローカルオーナーシップ・意図せざる結果	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国際問題	6．最初と最後の頁 36-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計18件（うち招待講演　0件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 Toshiya Tsujita
2．発表標題 The Impact of Domestic Factors on Israel’s Foreign Policy: Resilience, Deterrence, and Containment
3．学会等名 International Political Science Association (IPSA)（国際学会）
4．発表年 2021年

１．発表者名 今井宏平
２．発表標題 クルディスタン労働者党（PKK）の戦略変化に関する政治学的考察
３．学会等名 日本中東学会第36回年次大会特別集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 青山弘之
２．発表標題 傀儡か自治か：シリア北東部におけるクルド民族主義勢力の盛衰（2011～2019年）
３．学会等名 日本中東学会第36回年次大会特別集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 吉岡明子
２．発表標題 イラク・クルディスタン地域の国家性－未承認国家論からの検討
３．学会等名 日本中東学会第36回年次大会特別集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 青山弘之
２．発表標題 シリアの非国家武装勢力の実態
３．学会等名 日本国際政治学会2020年年次大会（オンライン）
４．発表年 2020年

１．発表者名 岡野英之
２．発表標題 隣国で消費されるナショナリズム－ミャンマー内戦におけるシャン人ナショナリズムと隣国タイのシャン人移民－
３．学会等名 日本国際政治学会2020年年次大会（オンライン）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Kohei Imai
２．発表標題 “Why Turkey focuses on establishment of small scale organizations?: Causes and conditions”
３．学会等名 Mediterranean Studies Association 22nd Annual International Congress（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hideyuki Okano
２．発表標題 “Bridging between the Governmental Policies and Local Measures: Patronage Network of Political Elites in the Ebola Epidemic in Sierra Leone,”
３．学会等名 the 8th European Conference on African Studies（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 岡野英之
２．発表標題 「タイに寄り添うナショナリズム－シャン人移民と武装勢力RCSS/SSA－」
３．学会等名 第28回タイ学会定例研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 辻田俊哉
２．発表標題 「エルサレムをめぐるイスラエルの政策動向―伝統とイノベーションの狭間で」
３．学会等名 日本ユダヤ学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kohei Imai
２．発表標題 Kurdish Studies in Japan
３．学会等名 World Congress for Middle East Studies 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kohei Imai
２．発表標題 Kinship versus Globalization? -Which is the predominant principle of moving for Syrian refugees
３．学会等名 12th Pan-European Conference on International Relations（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kohei Imai
２．発表標題 Ideas of intellectual circles during the interwar period and its contribution to non-Western IR: The case of Kadro movement in Turkey
３．学会等名 60th International Studies Association Annual Convention（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 岡野英之
２．発表標題 「人脈ネットワークとしての武装勢力－西アフリカ・シエラレオネ内戦とインフォーマルな国家統治－」
３．学会等名 京都人類学研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Hideyuki Okano
２．発表標題 “Transnational Sphere of Human Resources of the Shan People - The Fluidity between NGO/CSOs in Thailand and Armed Struggle in Myanmar,”
３．学会等名 Japan Association for Human Security Studies
４．発表年 2018年

１．発表者名 Akiko Yoshioka
２．発表標題 Relationship of Kurdistan Region to Iraq: from Federation to Referendum
３．学会等名 World Congress for Middle East Studies 2018（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 吉岡明子
２．発表標題 権威の不在と権力闘争がもたらすイラクの脆弱な統治
３．学会等名 国際安全保障学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Toshiya Tsujita
２．発表標題 The Concept and Practice of Resilience Management: A Systems Thinking Approach to Asymmetric Security Challenges
３．学会等名 60th International Studies Association Annual Convention（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計15件

１．著者名 今井 宏平	４．発行年 2022年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 164
３．書名 クルド問題 非国家主体の可能性と限界	

１．著者名 中村覚、末近浩太、千坂知世、千葉悠志、青山弘之、山尾大、坂梨祥、小副川琢、溝渕正季、高岡豊、吉岡明子	４．発行年 2021年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 276
３．書名 シリア・レバノン・イラク・イラン	

１．著者名 中村覚、浜中新吾、メロン・メドジニ、錦田愛子、田中香織、鈴木啓之、江崎智絵、立山良司、辻田俊哉、佐藤千景	４．発行年 2020年
２．出版社 ミネルヴァ書房	５．総ページ数 264
３．書名 イスラエル・パレスチナ	

１．著者名 末近浩太、遠藤 貢、松本弘、小林周、山尾大、久保慶一、増原綾子、鷲田任邦、ミヤ ドゥイ ロスティカ、ウイン ウインアウン カイン、岡野英之	４．発行年 2020年
２．出版社 岩波書店	５．総ページ数 216
３．書名 紛争が変える国家	

１．著者名 廣瀬 陽子	４．発行年 2021年
２．出版社 講談社	５．総ページ数 352
３．書名 ハイブリッド戦争　ロシアの新しい国家戦略	

１．著者名 Mitsugi Endo, Ato Kwamena Onoma, Michael Neocosmos, Akira Sato, Tamara Enomoto, Toshihiro Abe,Shinichi Takeuchi, Eisei Kurimoto, Kumiko Makino, Artwell Nhemachena	４．発行年 2021年
２．出版社 Langaa RPCIG	５．総ページ数 308
３．書名 African Politics of Survival: Extraversion and Informality in the Contemporary World	

１．著者名 エリカ・フランツ（訳：上谷直克、今井宏平、中井遼）	４．発行年 2021年
２．出版社 白水社	５．総ページ数 234
３．書名 権威主義	

1．著者名 豊田 知世、濵田 泰弘、福原 裕二、吉村 慎太郎、沖村理史、三木直大、近藤高史、小嶋常喜、外川昌彦、アディネガラ・イヴォンヌ、床呂郁哉、栗原浩英、貫井万里、荒井康一、阿部哲、新井健一郎、金暎根、丸山英樹	4．発行年 2020年
2．出版社 花伝社	5．総ページ数 334
3．書名 現代アジアと環境問題	

1．著者名 中村覚監修・間寧編著・大曲祐子・柿崎正樹・幸加木文・荒井康一・山口整・今井宏平・岩坂将充	4．発行年 2019年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 256
3．書名 『シリーズ中東政治研究の最前線第2巻・トルコ』	

1．著者名 浜中新吾編著・青山弘之編著・髙岡豊編著・溝渕正季	4．発行年 2020年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 316
3．書名 『中東諸国民の国際秩序感：世論調査による交際関係認識と越境移動経験・意識の計量分析	

1．著者名 北岡 伸一編著、細谷 雄一編著・田所昌幸・篠田英朗・熊谷奈緒子・詫摩佳代・廣瀬陽子・遠藤貢・池内恵	4．発行年 2020年
2．出版社 東洋経済新報社	5．総ページ数 424
3．書名 新しい地政学	

１．著者名 Toshihiro Abe (ed.)	４．発行年 2019年
２．出版社 Silkworm books	５．総ページ数 309
３．書名 The Khmer Rouge Trials in Context	

１．著者名 山口昭彦、青山弘之、今井宏平、貫井万里、吉岡明子他	４．発行年 2019年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 352
３．書名 『クルド人を知る55章』	

１．著者名 Hideyuki Okano	４．発行年 2019年
２．出版社 Langaa Rpcig	５．総ページ数 464
３．書名 Politics of Human Network in African Conflicts: Kamajor/The Cdf in Sierra Leone	

１．著者名 Toshihiro Abe	４．発行年 2018年
２．出版社 Lynne Rienner Publishers/ Kyoto University Press	５．総ページ数 241
３．書名 Unintended Consequences in Transitional Justice: Social Recovery at the Local Level	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岡野　英之 (OKANO HIDEYUKI) (10755466)	立命館大学・政策科学部・授業担当講師 (34315)	
研究分担者	廣瀬　陽子 (HIROSE YOKO) (30348841)	慶應義塾大学・総合政策学部（藤沢）・教授 (32612)	
研究分担者	青山　弘之 (AOYAMA HIROYUKI) (60450516)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	吉岡　明子 (YOSHIOKA AKIKO)		
研究協力者	阿部　利洋 (ABE TOSHIHIRO)		
研究協力者	辻田　俊哉 (TSUJITA TOSHIYA)		
研究協力者	貫井　万里 (NUKII MARI)		

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関